

令和7年度第3回認知症施策検討委員会 会議録

日時 令和8年2月13日(金)

13:30~15:20

場所 高梁市役所3階大会議室

1. 開 会

あいさつ(河本委員長)

認知症になっても安心して過ごせる町に向けて、今年度最後の会議となります。来年度に繋がるものになればと思いますので、本日もよろしくお願いいたします。

2. 協議内容

1) 令和7年度認知症総合支援事業等の実績及び評価について

詳細は別紙のとおり

(質疑応答・意見)

- ・「チームオレンジ土居」はどのあたりの地区か

→有漢町内であり、有漢インター入口周辺の地域になる

- ・本人の声が段々集まっている。本人の言葉からどんな気持ちなのか、拾った言葉をもとに施策化するという視点を持っていただきたい。

- ・のうKNOWはどのような検査か、判定結果はどのように判断すればいいか。

50名の検査が可能とのことだが、検査希望者が増えてもいいか。

→タブレットを用いて、トランプの色の判断や柄を記憶して2択で答える検査。Aから順に良い判定。

52歳の方で記憶力スコアC判定が出た方はいるが、脳年齢は同年齢で出していた。

予算の都合で今年度は50名分を購入している。

2) 認知症施策検討委員会活動について

※グループワーク

【1G】

- ・本人の声について、暗いイメージが多い。認知症に関することばかりにスポットがあたっている。聞く側がフィルターを掛けずに本人の声を聞けるよう考えを改める必要がある。
- ・啓発活動に対する住民の理解度等の評価は難しいが、今年度のように展示を見た人数を数字化できるものは成果も分かるため継続した方が良い。
- ・誰もが認知症になる可能性があると言える地域を作っていきたい
- ・認知症にどのようなイメージを持っているかを尋ねてみるのも良いので

はないか

【2G】

- ・普及啓発を継続していくことが大切
- ・チームオレンジがない地域で、誰に声をかけてどのように立ち上げるか考えていく必要がある。
- ・認知症初期集中支援事業に関して、精神科医がチーム員にいることは強み。今後も医師との連携が重要となる。
- ・高齢者自身や家族に精神疾患があり、生活に困る家庭が増えている。保健所保健師の協力体制もある。
- ・認知症カフェに関して、参加している人よりも来ない人の方が心配。来られない理由を聞ける人や困った時に相談できる体制づくりが必要。

【講評（河本委員長）】

現在実施していることを継続しながら、委員会での意見も参考に、より良くするための工夫をしている。来年度に生きてくるものになればと思う。

3. その他

- ・認知症施策検討委員会委員任期終了について
- ・オレンジガーデニングプロジェクトへの協力依頼

4. 閉 会